

令和5年度第1回 北海道立女性プラザ運営協議会 開催結果

1 日時

令和5年11月1日(水) 13:30~14:40

2 開催場所

かでの2・7 620会議室

3 出席者

(1) 委員

池端委員、上田委員、大島委員、繁富委員、花巻委員、森崎委員、矢野根委員

(2) 事務局

笹谷館長、近藤副館長、五木谷、小林

4 議題

(1) 令和4年度事業実績について

(2) 令和5年度事業の執行について

① 事業計画及び執行状況について

② 購入図書等の推薦について

5 主な意見

【男性を対象とする取組について】

- 女性プラザでは、女性を対象とするセミナーや講座をきめ細かく実施していると思うが、もっと男性が参加できるような取組を行ってはどうか。
- 仕事をしている父子世帯の父親は、土日であっても会場に足を運んでいただくことは実際には難しい。
シングルパパにとっては、子育てしているママさんとどこまでつながれるかが重要。お母さんのコミュニティは沢山あるが、こうしたコミュニティには、シングルパパはなかなかつながれない。つながるためにはお母さん方に父子家庭の現状を知ってもらう取組が必要
- 子ども食堂は、当初は子どもの貧困問題への対応として立ち上がったものだが、現在では、子どもが発するSOSを拾う入口になっている。お母さんには出せないが子どもだから出せるSOSがあり、そうした状況を行政サービスや町内会などの地域コミュニティ、学校カウンセラーにつなげて、解決した事例もある。
女性が社会に出ていくためには子ども達への対応をクリアしなければならず、こうした取組を行うことで、女性がより社会に出やすい環境ができる可能性があるのではないか。
- 子ども食堂を運営しているスタッフには男性も多い。子ども食堂間の交流がないということも聞くので、そうした場として交流フロアを提供し、子ども食堂の実態のようなことをZOOMで全道に発信してはどうか。
- シングルパパに子ども食堂を知っているかと尋ねると、言葉は知っているが、具体的な活動内容は知らず、自分の子どもにも行っておいでとは言えないと答える人が多い。

【今後の活動について】

- コロナが落ち着いてから、4月以降、「ツキイチマルシェ」ということで、交流フロアと会議室を使用してイベントを実施さ

せていただいている。毎月1回というのが好評で、単発で終わらず、継続して支援をしてきている場所というイメージが定着してきている。ただ、冬になると外を歩かなければならないというデメリットやインフルなどでお子さんの体調不良により予定していたスケジュールが狂ってしまうといったことがあるので、イベントではなく交流会を多くしたいと思っている。今月に実施を予定している女性起業家交流会は、約8割が初めての参加であるが、これは道立女性プラザで開催することで安心感があることも関係があると考えている。

- 働いている女性も多いので、セミナーのチラシの配布先として、公民館や図書館だけではなく、企業にも配布してはどうか。中小企業では独自の研修ができないところも多い。例えば、育休をとらせたところで、家庭で男性が何をするのかといったところまでの支援ができていないということもある。
- 道では、女性の活躍を応援する企業が「女性の活躍応援自主宣言」を行う取組を行っており、道を通じてこうした理解のある企業に対して情報発信を行うことができればよい。
- 育休をとった男性職員が「産後うつ」になるといった話も聞く。産前産後のりきりセミナーのような、男性が赤ちゃんのことを知るという機会は、どこでもやっていない。
- 学生たちを連れて女性プラザを訪問して説明をいただいた。学生たちはそもそもジェンダーについての理解は低く、授業で取り上げることもない。ここを訪問した後で、ジェンダー平等や女性としてどう生きるかといったことを考える学生が出てきた。知る、学ぶ機会を提供しなければ、女性プラザのような活動があることは分からないことも再認識した。